



岩手日報社遠野支局長

ほそかわ かつや  
**細川 克也** さん

(40歳・東穀町)

◎ Profile

1974年生まれ、盛岡市出身。1999年岩手日報社に入社。総務部秘書、報道部、久慈支局、運動部、東京支社、報道部デスクを経て今年4月から遠野支局長。運動部時代は、ロンドン五輪女子サッカー「なでしこジャパン」の岩清水梓選手(D F、旧滝沢村(現滝沢市)出身)に密着するなど、海外での取材も経験。



支局長の仕事は、まさにスピード勝負。取材から執筆まですべて一人でこなしている。スピードが求められるが、記事の正確性には決して手を抜かない。また、取り扱う内容は、医療や社会問題など幅広いため、一つ一つ丁寧に確認しながら、柔軟に対応している。

特にこだわっているのが、記事の顔とも言える写真。写真の技術を磨いたのは、運動部記者時代。スポーツ現場に何度か足を運び、県内出身のアスリートをひたすら追いつ、何万枚と撮り続けた。競技の面白さ、言葉では言い表せない鮮やかな瞬間は、写真でこそ伝えられると学んだ。



取材にあたる細川支局長

最も印象的だったのは、遠野高校が、県勢初となる「国立」の切符を手にした「第84回全国高等学校サッカー選手権大会(2006年開催)」。忘れもしない、あの感動を紙面で県民に届けたのが、細川さんだった。国立競技場のメイソンスタンド中央から試合の流れを追い、試合の臨場感や熱気、そして、選手や監督の喜びと感動を記者のフィルターを通して伝えた。「選手たちが懸命に国立のピッチを駆け抜ける。その姿が同じ岩手県民として誇らしかった。今回、遠野に着任したことに縁

## 遠野のありのままの魅力を 活字と写真で伝えたい

があると感じます」と感動を振り返り、着任した喜びを語る。

モットーは、地域の色に染まり、地域とともに歩むこと。「一人のつながりがあるからこそ、これだと思える記事が書ける。これからも、地域に密着し、遠野のありのままの魅力を、活字と写真で伝えていきたい」と意気込む。今日も市内を駆け巡り、遠野の魅力を取材する。

埋もれていた遠野の歴史と物語が、今ここに。

# 遠野学叢書 創刊。

遠野文化研究センターは、手軽に遠野の歴史を学んでもらうことを目的に、『遠野学叢書』を創刊しました。今回は下記の3巻を発刊。ぜひ、ご購入ください。

- ◆ 第1巻『宮守風土記』 1,500円(税込)  
平成10~17年に、郷土史家の水原義人氏が旧宮守村の広報紙「広報みやもり」で連載した「宮守風土記」などをまとめたもの。
- ◆ 第2巻『遠野の郷土芸能』 1,500円(税込)  
しし踊りや神楽など、市内の郷土芸能団体120団体を紹介したもの。継承活動が現在も展開されている65団体はカラーで紹介。
- ◆ 第3巻『菅沼藤左衛門打書』 1,000円(税込)  
江戸時代後期から明治時代を生きた豪商・菅沼が、一揆や災害など遠野の出来事を記録したもの。幕末期の遠野の様子が分かる。

販売場所▷遠野文化研究センター、遠野市立博物館



問い合わせ 遠野文化研究センター調査研究課(☎0198-60-2800)

### 目次

- 03 クローズアップ
- 04 市からのお知らせ  
市民体育館を利用しよう／遠野にぎわい商品券／命を守る検診
- 10 ニュース&トピックス  
防災無線がデジタル化／小友診療所完成／萩原印刷事業所拡大 ほか
- 12 総合カレンダー
- 14 まちの話題  
S L 銀河運行再開／緑のふるさと協力隊員着任／祝・百歳／田瀬湖清掃活動 ほか
- 16 我ら、国体応援団！ プラス  
国体に向けた取り組みなどを紹介
- 18 学びのいずみ  
キッズワールドクラブ生徒募集／国際理解講座／図書館情報／遠野遺産 ほか
- 20 インフォメーション
- 22 みんなの広場
- 24 青春のトーク！ ほか

2015 NO. 119

## 広報遠野 5

- 市の人口(平成27年3月末現在)  
男性:13,863人(-89)  
女性:14,967人(-99)  
計:28,830人(-188)  
世帯数:10,845世帯(-31) ※( )内は前月比
- 刑法犯総件数(平成27年3月中)  
2件
- 交通事故発生件数(平成27年3月中)  
発生74件 負傷者6人 死者0人
- 救急車出動回数(平成27年3月中)  
103回
- 火災発生件数(平成27年3月中)  
建物2件 車両0件 計2件

ご意見などは  
↓こちらまで!



各地区センターや市の公共施設に「市政なんでも相談箱」(左)を設置しています。市へのご意見・ご提言、広報へのご感想などをお寄せください。